

朝日生命成人病研究所附属医院に通院中の患者様へ

診療記録を利用した後ろ向き観察研究への協力をお願い

研究課題	GLP-1 受容体作動薬と上部消化管内視鏡検査における胃内食物残渣の関連の検討 (倫理委員会承認番号 14201)
研究の目的 および概要	私達は、これまでに、上部消化管内視鏡検査における胃内食物残渣の有無と糖尿病の関連の検討を行い、インスリン治療が、糖尿病または血糖コントロール (HbA1c) と独立して、上部消化管内視鏡検査における胃内食物残渣の有意なリスクファクターであることを報告しました (J Diabetes Investig. 2022 Mar;13(3):501-504. doi: 10.1111/jdi.13665. Epub 2021 Sep 27.)。しかし、GLP-1 受容体作動薬使用者における胃内食物残渣陽性症例が少なく、GLP-1 受容体作動薬と胃内食物残渣との関連については十分な検討が行えませんでした。ここ 1~2 年で、GLP-1 受容体作動薬の処方症例数は前述の研究時よりも増加しているため、今回、上部消化管内視鏡検査における胃内食物残渣と GLP-1 受容体作動薬の関連について検討し、今後の診療に役立てていくことを目的としています。
対象	2020 年 1 月 1 日~2022 年 6 月 30 日の期間内に、当院で上部消化管内視鏡検査を受診した患者様。
方法	本研究は朝日生命成人病研究所附属医院倫理委員会の承認を受けて実施するものです。これまでの診療でカルテに記載されている、年齢、性別、血液・尿検査、内視鏡検査、糖尿病歴、既往歴、治療内容等を調査し、そのデータを用いて統計学的解析を行います。過去の診療記録を用いて行う研究ですので、該当する患者様の現在・未来の診療内容に不利益を与えることはなく、また、新たにご負担いただくことはありません。
個人情報の 保護	解析にあたっては、収集した診療情報、データには新しい符号をつけ匿名化を行い、患者様と符号を結びつける対応表は、研究責任者が厳重に管理いたします。また、本研究に関わって収集された情報・データ等は、外部に漏洩することのないよう、個人情報の保護には十分注意いたします。研究結果については、個人が特定出来ない形式で、学会や論文等で発表されます。
研究者	朝日生命成人病研究所附属医院 【糖尿病代謝科】小堀勤子、大西由希子、吉田洋子、田原たづ、菊池貴子、窪田哲也、岩本真彦、澤田知伸、小林怜央、春日雅人 【消化器内科】藤原弘明
利益相反	本研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。

本研究に関してご不明な点がある場合や、あるいは、データの使用に同意されない場合には、下記連絡先にご連絡いただけますようお願い申し上げます。また、本研究への参加をお断りになった場合にも、将来的に当院における診療・治療の面で不利益を被ることはございませんのでご安心下さい。

研究責任者：朝日生命成人病研究所附属医院糖尿病代謝科 ドック・健診担当部長 小堀勤子

住所：東京都中央区日本橋馬喰町 2-2-6

電話：03-3639-5501